

改正後の屋島活性化基本構想における 課題の設定について

基本構想改正スケジュール（案）

令和7年

令和8年

【改正】基本構想骨子の検討

事業・施策の状況、棚卸し
現構想に掲げる具体的

課題の整理・検討

課題の設定

具体的施策・事業・推進
体制の検討

【改正】基本構想（素案）

パブリックコメント

【改正】基本構想（最終案）

議会報告等

【改正】基本構想完成・公表

第1回
親会

8/6（済）

第1回
小会議

10/7（済）

第2回
親会

11/4（本日）

第2回
小会議

※予定

第3回
親会

※予定

第4回
親会

※予定

<本日のテーマ>

改正後の基本構想における「課題の設定」についてご議論をお願いします。

課題 1：山上へのアクセス改善

- 屋島山上へのアクセスが、現状自動車又は徒歩（登山道等）に限られており、行楽シーズンを中心に屋島スカイウェイの渋滞や山上駐車場不足が常態化しつつあります。
- アクセスの不便さは、来訪者の滞在時間の短縮や満足度の低下を招く可能性があり、それによってリピーター等が減少し、観光地としての魅力が損なわれることで、さらなる来訪者の減少という悪循環に陥る恐れがあります。

◆委員意見（一部抜粋）

- ・ 行楽シーズンの駐車場対策との関わりを含め、公共交通の充実や歩道・ケーブル跡地の活用など、全体的な検討が必要
- ・ リフト・ケーブルカー等の二次交通手段については、引き続き中長期的に検討が必要
- ・ インバウンド等の受け入れに向けた質の高いツーリズムへの転換の観点から、公共交通機関（JR、こと電、バス）の利便性の向上が重要
- ・ 駐車場が一杯で、車だけでなくケーブルカー等公共交通手段が必要になってくることが予想
- ・ バス便の増発など、路線拡充で十分対応可能と思われるが、運転士不足、採算性など課題があるため、一定の行政支援は必要（事業者の自主運行では限界）
 - ※ また、繁忙期対策は必須（渋滞対策、駐車場出入庫時バス優先など）
- ・ 公共交通利用促進と駐車場問題とのセットでのコントロールが必要

課題 2：受入環境の改善

- 近年、高松市を訪れる観光客数は増加しており、今後屋島においても訪日観光客を含めた来訪者の増加が期待されます。しかし、現時点では訪日観光客の受入環境は十分とは言えず、受入体制の整備と将来的なオーバーツーリズムを未然に防ぐための環境整備が不可欠です。
- 現構想の取組等において、受入環境は一定改善されましたが、来訪者の増加に伴う混雑への対応や安全面における街灯の整備、樹木の手入れ等に加え、来訪者の多様化に対する観光案内等の多言語化やバリアフリーへの対応等、地域との連携を図りながら、持続可能な観光地づくりに向け、講じるべき課題が残されています。

◆委員意見（一部抜粋）

- ・ 夕日・夜景は、屋島の魅力の一つであるが、屋島寺や、やしまーるへのアクセス道、駐車場など、暗い場所が多いので、街路灯の拡充など、夜間の対策を要検討
- ・ ハード、ソフト両面でのアプローチが必要（訪日客向けの対策として、多言語対応ガイド育成や研修、案内アプリの活用等）
- ・ 史跡・天然記念物の価値を損ねるような駐車場整備には反対（繁忙期の駐車場予約や繁忙期料金の設定の検討が必要）
- ・ トイレ整備、夜間照明の更なる拡充、駐車場の拡大等、実行すべき事案を市が推進すべき
- ・ 観光案内版（国・県・市）の統一が取れていない、難しいが期限を決めて履行
- ・ 展望台も色々と増設され喜ばしい事ですが、展望台からの修景は樹木が覆い茂っていて悪い、関係機関（国・県・市等）が多く難しいが、年間を通して計画的に整備して欲しい。

課題 3：魅力磨き上げ・発信

- 屋島の持つ多様な魅力に対して、現在、提供可能な観光コンテンツや訪問先は限定的であり、観光客が訪れる時間帯の集中や滞在時間の短縮になっています。
- 屋島の多様な価値を正しく伝え、選ばれる観光地を目指すべく、未活用の資源を活かすことで、観光体験の質を向上させるとともに、ターゲットに応じた効果的な情報発信を行う等、市民や国内外へ屋島の魅力を広く発信、集客するために、ソフト施策の深化・充実が求められます。

◆ 委員意見（一部抜粋）

- ・ 世界的価値の認証を展望するせとうち讃岐ジオパーク構想との連携を強化し、大地（天然記念物）、自然環境（瀬戸内海国立公園）、歴史文化（史跡）をつなげた魅力的なストーリーを磨いて、シビックプライドを育む教育や質の高い観光が必要
- ・ ナイトタイムエコノミーの観点から夕景・夜景の活用が重要（山上に宿泊施設が少ないことから、市内の宿泊客のツアー企画の検討など）
- ・ 昔の観光地のイメージを払拭するためのブランディング戦略や、ターゲットを明確にしたアプローチなど、トータルコーディネートが必要
- ・ 屋島のブランド力向上のための情報発信や集客性のあるイベントなど、重点的に取り組むべき課題
- ・ 県と連携した夜型観光に繋がるコンテンツや、史跡等を活かしたコンテンツの造成が必要

課題4：廃屋への対応

- 屋島山上には、老朽化した建物や利用されていない施設が点在しており、景観の悪化や安全面、防犯面での悪影響を及ぼしています。
- 眺望スポットである談古嶺へ向かう散策ルート沿い等、比較的来訪者の往来が多い南嶺東側エリアにも廃屋が残されており、放置された状態が続くと、来訪者の満足度低下や屋島全体の魅力の損失につながる恐れがあります。

◆委員意見（一部抜粋）

- ・屋島の価値を損ねているので、国立公園関係補助金の活用など、公費による撤去の検討も必要
（ただし、旧屋島ケーブルの山上駅はアール・デコ調の建物なので、アートと連携した活用も検討の余地あり：課題「受入環境の改善」に関連）
- ・商業施設（カフェ、簡易宿所、アートスペース等）としての活用が難しければ、景観上撤去すべき
- ・解体し跡地を駐車場拡充、休憩所の増設、緑地化等に転用。解体・転用には、法的な制約もあると思われるので、行政などによる介入の必要性も要検討
- ・特に甚五郎は、民間の所有物であるが故に、行政が撤去するのは難しいものの、景観を損ねるのみならず、園路と隣接しており、来訪者の安全確保や景観上、早急な撤去が必要

課題 5：北嶺の利活用

- 北嶺エリアは豊かな自然や眺望、独特な地形・地質を有しながらも、そのポテンシャルが十分に活かされておらず、観光地としてあまり認知されていません。
- 山上駐車場や主要な観光スポットが集積する南嶺エリアからのアクセスが不便であり、観光客の来訪機会も限定的です。
- 屋島全体の魅力をさらに高めるためには、北嶺の認知度向上と南嶺との回遊性の強化が必要です。

◆委員意見（一部抜粋）

- ・ 自然環境を保全し、自然環境教育、癒しの場所としての活用が必要
- ・ ジオツーリズムやアドベンチャーツーリズムからのアプローチの検討が必要
- ・ 環境省による北嶺の整備を活かし、毎月1、2回程度のガイド付きウォークを行うなど、ソフト施策が必要
- ・ 駐車場からのアクセス強化が必要（レンタサイクル、電動キックボード等の徒歩以外での移動手段）
- ・ 北嶺の認知度向上とアクセス向上が必要と考えるが、北嶺でのモビリティの活用については、安全確保について慎重な協議が必要
- ・ 環境省としては、北嶺は、静かに歩いてゆっくり散策や自然観察を行うための場所であり、所管地内の園路は歩道を前提としており、今後も土地管理者及び施設管理者として、歩道としての維持管理を続けていく方針

協議事項

以上を踏まえ、屋島活性化基本構想の改正にあたっては、
次の5つの課題を重点的に取り組むべき課題として、
設定してよいかご協議をお願いします。

1

山上への
アクセス
改善

2

受入環境
の改善

3

魅力磨き上げ
・発信

4

廃屋への
対応

5

北嶺の
利活用